

ハリマ化成 創業地で株主総会

兵庫大学生、活発なやりとり見学



株主総会の会場を見学し、ハリマ化成のカルメン中村広報グループ長(右端)から説明を受ける兵庫大生＝加古川市加古川町溝之口、加古川プラザホテル

加古川市で創業したハリマ化成グループ(大阪市)が23日、JR加古川駅南の加古川プラザホテルで株主総会を開いた。兵庫大現代ビジネス学部(加古川市)の学生約30人がオブザーバー参加し、株主と会社側との質疑応答を目的の当たりにした。

産学交流を図り、ビジネスを学ぶ学生に実際の総会を見てもらおうと、2019年に実施。コロナ禍で4年ぶりに学生を招いた。

開会前、学生たちは会場を見学した。その後、長谷川吉弘社長(75)が日本での株主総会の様変わりについて

説明。「物言う株主」への対応という新たな課題が出ていることなどを紹介した。

約150人の株主が出席。同社が事業や財務の状況などを報告した。質疑応答では、同社が上場維持基準を満たした東京証券取引所「プライム市場」について質問が相次いだ。同社は「企業価値を上げるため基準をクリアしていく努力を続ける」とした。

学生たちは株主と会社側とのやりとりに熱心に耳を傾けていた。兵庫大1年の曾谷啓斗さん(18)は「淡々と進むのかと思ったら、活発に意見が交わされたので驚いた。この経験を今後に生かしたい」と話した。

(増井哲夫)